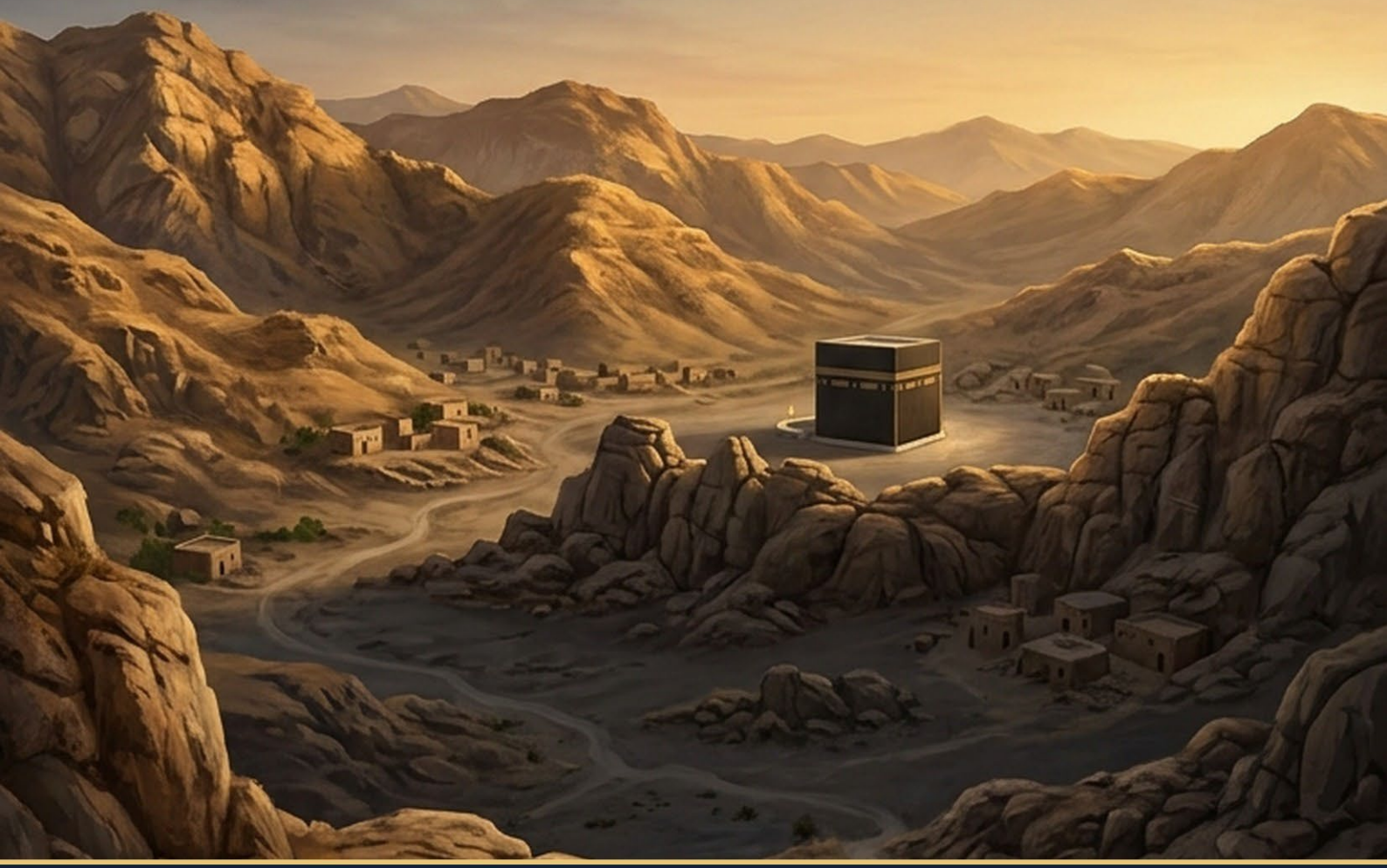
預言者伝（スィーラ）

第 1 巻

マッカの谷の光

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒ﷺの家系・誕生・幼少期



Hj Che Alim Hj Che Haron
AK (Kelantan)
quranscience.my

© 2026 年 / 1448 AH Hj Che Alim Hj Che Haron AK (Kelantan) • quranscience.my • @QuranScienceMY
この電子書籍はムスリムのための無料版です — 販売禁止。

بِسْمِ اللَّهِ الرَّحْمَٰنِ الرَّحِيمِ

預言者伝（スィーラ）

第 1 巻

マッカの谷の光

クルアーンと真正なハディースに基づく、アッラーの使徒ﷺの家系・誕生・幼少期

لَقَدْ جَآءَكُمْ رَسُولٌ مِّنْ أَنفُسِكُمْ عَزِيزٌ عَلَيْهِ مَا عَنِتُّمْ حَرِيصٌ عَلَيْكُم بِٱلْمُؤْمِنِينَ رَءُوفٌ رَّحِيمٌ

「今、使徒があなたがたにあなたがたの間から、やって来た。かれは、あなたがたの悩みごと に心を痛め、あなたがたのため、とても心配している。信者に対し優しく、また情深い。」

悔悟章 9:128

HJ CHE ALIM HJ CHE HARON

quranscience.my | @QuranScienceMY

© 2026 年 / 1448 AH quranscience.my — 無料の電子書籍。販売禁止。

謝辞

私たち自身の中から一人の使徒を遣わされたアッラーに一切の称賛あれ。その使徒は私たちの苦しみを心に痛め、私たちの幸福を強く願われた。私たちの主、預言者ムハンマド ﷺ と、その家族と教友たちに祝福と平安あれ。

この電子書籍を、最愛の妻

ザハラ・モハマド・ラティフ；

愛する子どもたち、

ムハンマド・ハフィズ、ヌール・ハズワニ、アブドゥル・ハキム、ヌール・ヒダヤ、ノル・アキラ、ノル・アティカ；

そして義理の子どもたち、

ファジラ、マレク、ハニン、ファイリザル、フィルワンに捧げます。

この電子書籍をもって、シリーズ『クルアーンの物語』を締めくくった「象の年」の話を受け継ぎ、『預言者伝（スィーラ）』シリーズが始まります。アッラーの使徒 ﷺ を幼少期から知ることで、私たちのかれへの愛が深まりますように。そしてこの知識が「イルムン・ユンタファウ・ビヒ」、すなわち役に立つ知識となりますように。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

この電子書籍の表紙について

この電子書籍の表紙には人物は描かれていません。描かれているのは夜明けの**マッカの谷の風景**です。谷を囲む**乾いた岩山**、その中心に立つ簡素な**カアバ**、そして地平線から昇り始める**金色の光**。

その夜明けの光は、アッラーの使徒 ﷺ の誕生を象徴しています。その谷こそ、「**かれらの中から一人の使徒を遣わして下さい**」 – カアバを建てたときの預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈り（2:129） – が捧げられた場所です。そして次第に明るくなる夜空は、やがてかれの使命によって照らされるジャーヒリーヤ（無明時代）を思い起こさせます。

下部の紺色の帯は、**細い金色の線**に縁取られ、著者名が記される場所です。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

目次

マッカの谷の光 — はじめに

1. 誕生前のアラビア半島 — 地図；周辺の大国

2. マッカ：作物のない谷 — イブラーヒーム章 14:37

3. クライシュ族：カアバの守り手と商人 — クライシュ族章 106:1–4

4. 預言者イブラーヒームの祈りと選ばれた家系 — 雌牛章 2:129；サヒーフ・ムスリム 2276

5. アッラーの使徒ﷺの家系 — 家系図

6. アブドルムッタリブとザムザムの井戸 — スィーラの注

7. アブドッラーとアーミナ — スィーラの注；年表

8. 象の年：誕生の前触れ — 表；スィーラの注

9. 月曜日の誕生 — サヒーフ・ムスリム 1162；象の年

10. 称えられる名 — スィーラの注；かれの名前

11. 守られた孤児 — 朝章 93:6–8

12. 乳母たち — サヒーフ・ブハーリー 5101；ハリーマ・アッ＝サアディーヤ

13. サアド族の砂漠での暮らし — スィーラの注

14. 胸を開く出来事 — サヒーフ・ムスリム 162；胸を広げる章 94:1

15. 母のもとへ — スィーラの注

16. 母との別れ — サヒーフ・ムスリム 976

17. ウンム・アイマン：誠実な養育者 — 旅の地図；スィーラの注

18. 祖父とおじに守られて — 羊の放牧：サヒーフ・ブハーリー 2262

19. アブー・ターリブ：貧しくとも高潔なおじ — スィーラの注

20. かれの幼少期のマッカ社会 — ウカーズの市；スィーラの注

21. 親と養育者への教訓 — 実践の表

22. 真正な伝承と有名な話のあいだ — 伝承の評価

23. 6 世紀の世界 — ローマ、ペルシア、ハバシャ、そして東南アジア

24. このシリーズの重要な場所 — 場所と距離の表

25. 歴史の足跡：碑文と古代遺跡 — アブラハの碑文；マアリブ；カルヤト・アル＝ファウ

26. このシリーズの人物 — 人物の表

27. 年表：スィーラと世界 — 出来事の表

28. よくある質問 — 12 の質問

29. 教訓と結び

参考文献

支援と寄付

色の見方：緑の枠 = クルアーンの節；金色の枠 = ハディース；茶色の枠 = スィーラの注（スィーラ書の伝承）；青い表 = 比較。青い下線の伝承者名をクリックすると、sunnah.com の伝承者のページが開く。

マッカの谷の光

シリーズ『クルアーンの物語』は、「**象の年**」の物語で締めくくられました。アッラーがアブラハの軍勢からご自分の館を守られた年です。その年、乾いたマッカの谷で、一人の孤児が生まれました。やがて「**全世界への慈悲**」となる方 – アブドッラーの子ムハンマド ﷺ です。

本書は『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズの最初の電子書籍であり、アッラーの使徒の**家系・誕生・幼少期**について真正とされることをまとめています（アッラーの使徒 ﷺ）。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈り、選ばれた家系、誕生の日、乳母たち、胸を開く出来事、母の死、そして祖父とおじによる養育を扱います。

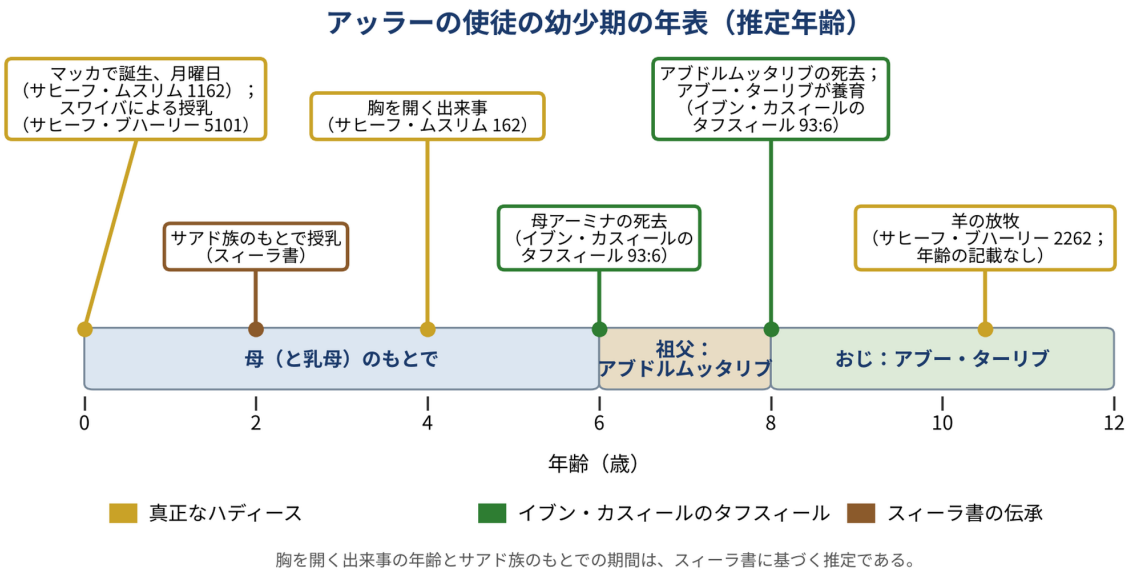
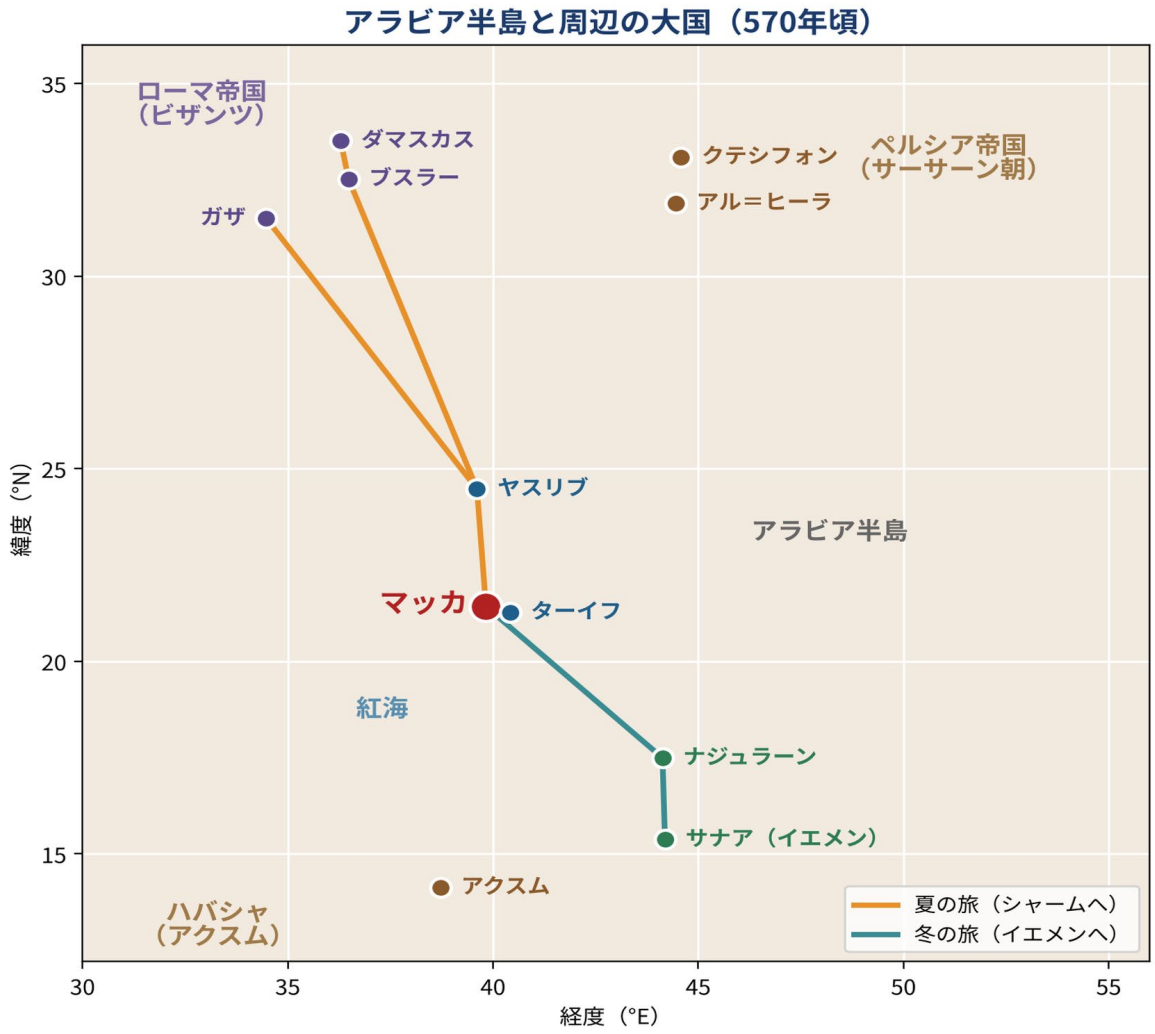


図 1：アッラーの使徒 ﷺ の幼少期の年表と、各出来事の典拠。

注：本書のクルアーンの節の日本語訳は三田了一訳による。主な典拠はクルアーン、イブン・カスィールのタフスィール、真正なハディースであり、各ハディースの等級はハディースの枠内に示している。イブン・イスハークのスィーラ（イブン・ヒシャームの伝承）などスィーラ書からの情報は、真正なハディースと区別できるよう、茶色の「スィーラの注」の枠に入れている。

誕生前のアラビア半島

アッラーの使徒 ﷺ の誕生を理解するには、かれが生まれた世界を見る必要があります。6 世紀半ば、**アラビア半島**は大国に囲まれていましたが、マッカを含む内陸部は、どの帝国にも**一度も支配されたことがありません**でした。



概略図。位置は推定。出典：Wikipedia「Pre-Islamic Arabia」「Quraysh」。

図 2：アッラーの使徒 ﷺ の誕生当時のアラビア半島と周辺の大国（概略図）。

周辺の大国

勢力	位置と影響力
東ローマ帝国（ビザンツ）	北西：シャーム、パレスチナ、エジプト。アラブのガッサーン族と同盟。
ペルシア帝国（サーサーン朝）	北東：イラクとペルシア。ヒーラのラフム族と同盟。
アクスム王国（ハバシャ）	紅海の対岸。6 世紀初めにイエメンを支配 – アブラハはそこから来た。

出典：Wikipedia, “Pre-Islamic Arabia”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

宗教と社会

当時のアラブ人の多くは**偶像を崇拝**していました。有名な偶像には**アッ＝ラート、アル＝ウッザー、マナート** – その名は星章 53:19–20 に記されています – と、カアバの**フバル**があります。イエメンとナジュラーンにはキリスト教徒がおり、ユダヤ教徒の部族はヤスリブなどに住んでいました。

アラブ社会は**部族**ごとに組織されていました。部族への忠誠は非常に強く、部族は構成員を守り、部族間の戦いは何年も続くことがありました。かれらはまた**詩**、客人へのもてなし、勇敢さでも知られていました – これらの美徳はのちにイスラームによって磨かれます。

スィーラの注：なぜアラビア半島なのか？

スィーラの学者たちは、最後の啓示がアラビア半島で下された英知としていくつかを挙げています。アジア・アフリカ・ヨーロッパの**中央**に位置すること、民族が大帝国の支配から**自由**であったこと、そして豊かで雄弁な**アラビア語**がクルアーンの言語となったことです。これらの英知は学者の見解であり、確定的な典拠ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

マッカ：作物のない谷

マッカはヒジャーズ地方の**狭い谷**にあり、乾いた岩山に囲まれています。川はなく、作物もほとんど育ちません。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ が妻ハージャルと息子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ をそこに残したとき、かれはこう祈りました。

イブラーヒーム章 14:37

رَّبَّنَآ إِنِّيٓ أَسۡكَنتُ مِن ذُرِّيَّتِي بِوَادٍ غَيۡرِ ذِي زَرۡعٍ عِندَ بَيۡتِكَ ٱلۡمُحَرَّمِ رَبَّنَا لِيُقِيمُواْ ٱلصَّلَوٰةَ فَٱجۡعَلۡ أَفۡـِٔدَةٗ مِّنَ ٱلنَّاسِ تَهۡوِيٓ إِلَيۡهِمۡ وَٱرۡزُقۡهُم مِّنَ ٱلثَّمَرَٰتِ لَعَلَّهُمۡ يَشۡكُرُونَ ٣٧

主よ、わたしは子孫のある者をあなたの聖なる館の側の耕せない谷間に住まわせました。主よ、かれらに礼拝の務めを守らせて下さい。そうすれば人びとの心をかれらに引き付けるでしょう。またかれらに果実を御授け下さい。きっとかれらは感謝するでしょう。

訳：三田了一 — quran.com/14:37

アッラーは預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈りについてこう述べておられます。「**あなたの聖なる館の側の耕せない谷間に**」。この祈りは聞き届けられました。人々の心はその谷に**引き付けられ**、外から住民に糧が届くようになったのです。イブン・カスィールのタフスィール 14:37

数字で見るマッカ

項目	説明
標高	海抜約 277m、狭い谷の中。
最も高い山	ヌール山（ジャバル・アン＝ヌール）、642m – 山頂近くにヒラーの洞窟がある。
気候	暑い砂漠気候。夏は通常 40°C を超える。
降水量	年平均約 105mm。
水源	ザムザムの井戸と小さな井戸。雨水は貯水池に蓄えられた。
人口	推定はさまざまである。ある研究では約 550 人、伝統的な資料では最大 1 万人とされる。

出典：Wikipedia, “Mecca”。

カアバ：谷の中心

谷の中心には、預言者イブラーヒームとイスマーイール ***Kaabah*** が建てた礼拝の館、カアバが立っていました。アラブ人はのちにその周りに偶像を置きましたが、なお**カアバを敬い**、毎年巡礼に訪れていました。巡礼の季節は休戦、交易、部族間の出会いをもたらしました – だからこそマッカは、作物がなくとも重要な町となったのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

クライシュ族：カアバの守り手と商人

マッカを支配していた部族は**クライシュ族**でした。Wikipedia によれば、かれの 5 代前の祖先**クサイイ・ブン・キラーブ**が、散らばっていたフィフルの子孫を集め、カアバの管理を引き継ぎました。かれはその一部をカアバの周りに住まわせ（**クライシュ・アル＝ビターフ**）、残りを聖域の周縁に住まわせました（**クライシュ・アッ＝ザワーヒル**）。

年に二度の旅

マッカの土地は肥沃ではなかったため、クライシュ族は**交易**で暮らしていました。Wikipedia によれば、かれの曾祖父**ハーシム**が二つの隊商の旅を始めました。**冬はイエメンへ、夏はシャームへ**（ガザ、ブスラー、ダマスカス）。ハーシム自身も、そうした旅の途中、497 年頃にガザで亡くなりました。クルアーンはこの恩恵に触れています。

クライシュ族章 106:1–4

لِإِيلَٰفِ قُرَيْشٍ ١

クライシュ族の保護のため、

إِۦلَٰفِهِمْ رِحْلَةَ ٱلشِّتَآءِ وَٱلصَّيْفِ ٢

冬と夏のかれらの隊商の保護のため、（そのアッラーの御恵みのために）

فَلْيَعْبُدُوا۟ رَبَّ هَٰذَا ٱلْبَيْتِ ٣

かれらに、この聖殿の主に仕えさせよ。

ٱلَّذِىٓ أَطْعَمَهُم مِّن جُوعٍ وَءَامَنَهُم مِّنْ خَوْفٍۢ ٤

飢えに際しては、かれらに食物を与え、また恐れに際しては、それを除き心を安らかにして下さる御方に。

訳：三田了一 — quran.com/106:1-4

アッラーは仰せられます。「**かれらに，この聖殿の主に仕えさせよ**」。クライシュ族の安全と糧はアッラーから与えられたもの。かれらはその館の守り手だったのだから、偶像ではなくアッラーに仕えるべきだったのです。イブン・カスィールのタフスィール 106:1。

クライシュ族の諸氏族

氏族	スィーラとの関わり
ハーシム家	アッラーの使徒 ﷺ の氏族。巡礼者に仕える権利を持つ。
ムッタリブ家	ハーシム家の親密な同盟者。
ズフラ家	かれの母アーミナ・ビント・ワハブの氏族。
ウマイヤ家（アブド・シャムス）	最も有力で裕福な氏族。ウスマーン・ブン・アッファーンの氏族。
タイム家	アブー・バクル・アッ＝スィッディークの氏族。
アディー家	ウマル・ブン・アル＝ハッターブの氏族。
アサド家	ハディージャ・ビント・フワイリドの氏族。
マフズーム家	ハーリド・ブン・アル＝ワリードの氏族。

出典：Wikipedia, “Quraysh”；Wikipedia, “Hashim ibn Abd Manaf”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

預言者イブラーヒームの祈りと選ばれた家系

雌牛章 2:129

رَبَّنَا وَٱبۡعَثۡ فِيهِمۡ رَسُولٗا مِّنۡهُمۡ يَتۡلُواْ عَلَيۡهِمۡ ءَايَٰتِكَ وَيُعَلِّمُهُمُ ٱلۡكِتَٰبَ وَٱلۡحِكۡمَةَ وَيُزَكِّيهِمۡۚ إِنَّكَ أَنتَ ٱلۡعَزِيزُ ٱلۡحَكِيمُ ١٢٩

主よ、かれらの間にあなたの印を読誦させ啓典と英知を教え、かれらを清める使徒をかれらの中から遣わして下さい。本当にあなたは偉大にして英明な方であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:129

2:129 の解説

息子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ とともにカアバの土台を築いていたとき、預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ は、アッラーがこの聖域の住民の中から一人の使徒を遣わしてくださるよう祈りました。イマーム・イブン・カスィールはこう説明しています。この聞き届けられた祈りは**アッラーの先の定めと一致していた**。すなわち、イブラーヒームの子孫からムハンマド ﷺ が使徒として、文字を知らない民へ、そして全人類と精霊（ジン）へ遣わされることである。イブン・カスィールのタフスィール 2:129

また悔悟章でアッラーは仰せられます。「**今，使徒があなたがたにあなたがたの間から，やって来た**」（9:128）。イブン・カスィールは「**あなたがたの中から、あなたがたの言葉で**」と述べています。かれはジャアファル・ブン・アビー・ターリブ رضى الله عنه がナジャーシー（ハバシャ王）に語った言葉を引用しています。「アッラーは私たちの中から一人の使徒を遣わされました。私たちはかれの家系、人柄、日々の行い、誠実さと信頼性をよく知っています。」イブン・カスィールのタフスィール 9:128

家系：アッラーの使徒ﷺ

イマーム・ブハーリーは、預言者 ﷺ の遣わしに関する章の題でかれの家系を挙げています。**ムハンマド・ブン・アブディッラー・ブン・アブドルムッタリブ・ブン・ハーシム・ブン・アブド・マナーフ・ブン・クサイイ・ブン・キラーブ・ブン・ムッラ・ブン・カアブ・ブン・ルアイイ・ブン・ガーリブ・ブン・フィフル・ブン・マーリク・ブン・アン＝ナドル・ブン・キナーナ・ブン・フザイマ・ブン・ムドリカ・ブン・イルヤース・ブン・ムダル・ブン・ニザール・ブン・マアッド・ブン・アドナーン。**サヒーフ・ブハーリー、アンサールの美徳の書、預言者の遣わしの章

学者たちが確かなものとして受け入れているのは**アドナーン**までの家系であり、アドナーンはイブラーヒームの子イスマーイール عَلَيْهِ السَّلَامُ の子孫です。かれの母は**アーミナ・ビント・ワハブ**であり、イブン・カスィールは朝章のタフスィールでそう述べています。次のハディースは、この家系がアッラーの選びであることを示しています。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 2276 番

حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ مِهْرَانَ الرَّازِيُّ، وَمُحَمَّدُ بْنُ عَبْدِ الرَّحْمَنِ بْنِ سَهْمٍ، جَمِيعًا عَنِ الْوَلِيدِ، - قَالَ ابْنُ مِهْرَانَ حَدَّثَنَا الْوَلِيدُ بْنُ مُسْلِمٍ، - حَدَّثَنَا الأَوْزَاعِيُّ، عَنْ أَبِي عَمَّارٍ شَدَّادٍ، أَنَّهُ سَمِعَ وَاثِلَةَ بْنَ الأَسْقَعِ، يَقُولُ سَمِعْتُ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم يَقُولُ « إِنَّ اللَّهَ اصْطَفَى كِنَانَةَ مِنْ وَلَدِ إِسْمَاعِيلَ وَاصْطَفَى قُرَيْشًا مِنْ كِنَانَةَ وَاصْطَفَى مِنْ قُرَيْشٍ بَنِي هَاشِمٍ وَاصْطَفَانِي مِنْ بَنِي هَاشِمٍ ».

訳：

ワーシラ・ブン・アル＝アスカア رضى الله عنه によれば、かれは言った。私はアッラーの使徒 ﷺ がこう言われるのを聞いた。「**本当にアッラーはイスマーイールの子孫からキナーナを選び、キナーナからクライシュを選び、クライシュからハーシム家を選び、ハーシム家から私を選ばれた。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ムハンマド・ブン・ミフラーン・アッ＝ラーズィーとムハンマド・ブン・アブドゥッラフマーン・ブン・サフム ← アル＝ワリード・ブン・ムスリム ← アル＝アウザーイー ← アブー・アンマール・シャッダード・ブン・アブディッラー ← ワーシラ・ブン・アル＝アスカア رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』美徳の書、預言者 ﷺ の家系の優越の章、ハディース第 2276 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2276

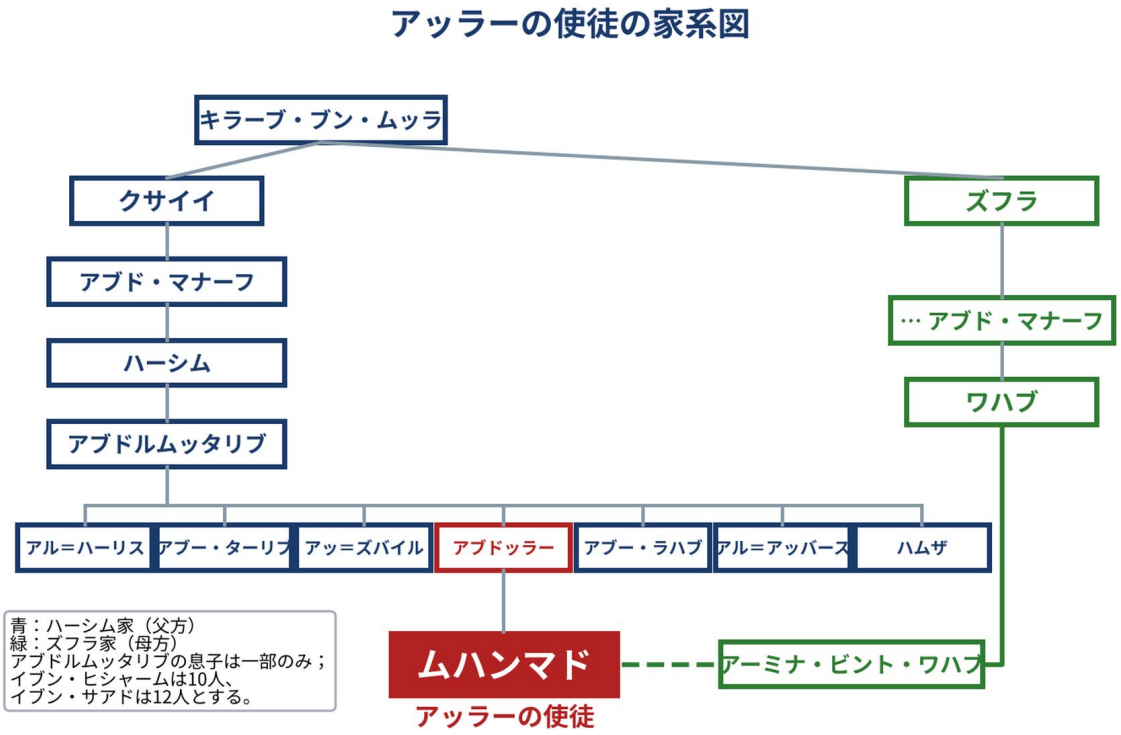
教訓

家系の高貴さは誇るためのものではなく、使徒に対する**アッラーの選びのしるし**です。それによって民はかれを知り、その血筋を非難できなかったのです。私たちの尊さは、敬虔さ（タクワー）によって測られます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

家系図：アッラーの使徒 ﷺ

次の図は、かれの家族を**両側**から示しています。父方は**ハーシム家**、母方は**ズフラ家**。両者は**キラーブ・ブン・ムッラ**で結ばれます。ズフラはクサイイの兄弟だったからです。



出典：サヒーフ・ブハーリー（預言者の遣わしの章）；Wikipedia「Abd al-Muttalib」「Amina bint Wahb」。

図 3：アッラーの使徒 ﷺ の父方と母方の家系図。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

かれのおじたち

アブドルムッタリブには多くの息子がいました。その人数についてはスィーラ書によって異なります。そのうち 4 人がスィーラで重要な位置を占めています。

おじ	立場
アブー・ターリブ	8 歳のときからかれを養い、守った。
ハムザ رضى الله عنه	マッカでイスラームに入信。「アッラーの獅子」と呼ばれた。
アル＝アッバース رضى الله عنه	イスラームに入信。アッバース朝カリフたちの祖先。
アブー・ラハブ	かれに敵対した。棕櫚章（マサド章）に言及されている。

教訓：**血のつながりは導きを保証しない。**二人のおじはイスラームに入り、一人はかれを守り、もう一人は敵対しました。導きはアッラーからの恵みなのです。

アブドルムッタリブとザムザムの井戸

スィーラの注：「ムッタリブの奴隷」と呼ばれたシャイバ

Wikipediaによれば、かれの祖父は496年頃**ヤスリブ**で**シャイバ**という名で生まれました。母**サルマー・ビント・アムル**はヤスリブのナッジャール家の出身でした。ハーシムの死後、おじの**アル＝ムッタリブ**がかれをマッカへ連れてきました。マッカの人々はその少年をムッタリブの奴隷だと思い、**アブドルムッタリブ**（ムッタリブの奴隷）と呼び、その名が定着しました。

参照：

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

ザムザムの再発掘

アブドルムッタリブはハーシム家の長となり、巡礼者に食べ物と飲み物を提供する役目を担いました。スィーラ書の伝承によれば、かれはカアバの近くのある場所を掘るよう夢で命じられました。**3 日間**掘り続けたのち、長く埋もれていた**ザムザムの井戸**を再発見したのです。それ以来、ザムザムの水は再び巡礼者に供されるようになりました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：誓いと百頭のラクダによる贖い

スィーラ書の伝承によれば、アブドルムッタリブは誓いを立てました。もし成人する 10 人の息子を授かったなら、そのうち一人をカアバのそばで犠牲にすると。くじは最も愛する息子**アブドッラー**に当たりました。人々の助言により、アブドッラーとラクダのあいだでくじを引き、そのたびにラクダの数を増やしていきました。ラクダが**百頭**に達したとき、ようやくくじがラクダに当たり、アブドッラーは救われました。

この話は**スィーラ書の伝承**であり、真正なハディースではありません。子を犠牲にするというジャーヒリーヤの慣習が、のちにイスラームによって廃止されたことを示しています。

参照：

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

アブドルムッタリブとアブラハ

象の年、アブドルムッタリブはアブラハと対峙したマッカの指導者でした。その話は『クルアーンの物語』第 39 巻で詳しく述べました。カアバには、それを守る主がおられるのです。わずか数週間後、かれの孫ムハンマド ﷺ が誕生しました。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

アブドッラーとアーミナ

誓いから救われたアブドルムッタリブの息子アブドッラーは、ズフラ家の**アーミナ・ビント・ワハブ**と結婚しました。Wikipedia によれば、アーミナの母は**バッラ・ビント・アブドルウッザー**であり、その祖先ズフラは**クサイイ・ブン・キラーブの兄弟**でした。つまり、かれの両親はともに高貴なクライシュの家系の出身です。

スィーラの注：ヤスリブでのアブドッラーの死

Wikipedia とスィーラ書によれば、アーミナが身ごもっていたとき、アブドッラーは**交易の隊商**とともに出かけました。帰路に病にかかり、アブドルムッタリブの母方の親族のもとで、子が生まれる前に**ヤスリブで亡くなりました。**

これが、イブン・カスィールが朝章のタフスィールで述べていることです。かれは**母の胎内にいるときから孤児であった**（「守られた孤児」の章を参照）。

参照：

Wikipedia「Amina bint Wahb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Amina_bint_Wahb

西暦で見た誕生の年

現代の歴史家は**象の年**を **570 年**頃と推定しており、かれの誕生も通常 **570 年**とされます。571 年とする研究者もいます。ハディースで真正とされているのは誕生の**曜日**、すなわち月曜日です。出典：Wikipedia, “Mecca”。

出来事	推定西暦年
ハーシム、ガザで死去	497 年頃
アブドルムッタリブ、ヤスリブで誕生	496 年頃
象の年；誕生 – アッラーの使徒 ﷺ	570 年頃
アーミナ、アル＝アブワーで死去	576〜577 年頃
アブドルムッタリブ死去	578 年頃

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

象の年：誕生の前触れ

アッラーの使徒 ﷺ の誕生に先立って、マッカの全住民が目撃した大事件がありました。カアバを破壊するために象を連れて進軍してきた**アブラハ**の軍勢です。その全容は『クルアーンの物語』第 39 巻で述べました。ここではかれの誕生に関わることだけをまとめます。

項目	説明
アブラハとは？	アクスム王国（ハバシャ）の代理としてイエメンを治めたキリスト教徒の指導者。
目的	カアバを破壊し、アラブ人をイエメンの自分の教会へ巡礼させること。
起きたこと	先頭の象はマッカの境で止まり、軍勢はアッラーによって滅ぼされた（象章）。
推定年	現代の歴史家によれば 570〜572 年頃。

出典：Wikipedia, “Mecca”；イブン・カスィールのタフスィール、象章。

なぜこの出来事が重要なのか？

第一：アッラーの館が守られた。 アッラーの使徒 ﷺ の共同体のキブラ（礼拝の方向）となるカアバが、かれの誕生の数週間前に救われました。

第二：クライシュ族の地位が高まった。 スィーラ書によれば、アッラーがかれらの館を守られたことで、アラブ人はクライシュ族を「**アッラーの民**」とみなし、マッカの名誉がいっそう高まりました。

第三：時の目印となった。 アラブ人には決まった暦がなかったため、その年を**象の年**と名づけ、他の出来事をそこから数えました – アッラーの使徒 ﷺ の誕生もその一つです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

月曜日の誕生

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が、月曜日の断食について尋ねられたとき、ご自分の誕生の曜日を告げられました。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1162 番

وَحَدَّثَنِي زُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، حَدَّثَنَا عَبْدُ الرَّحْمَنِ بْنُ مَهْدِيٍّ، حَدَّثَنَا مَهْدِيُّ بْنُ مَيْمُونٍ، عَنْ غَيْلاَنَ، عَنْ عَبْدِ اللَّهِ بْنِ مَعْبَدٍ الزِّمَّانِيِّ، عَنْ أَبِي قَتَادَةَ الأَنْصَارِيِّ، رضى الله عنه أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم سُئِلَ عَنْ صَوْمِ الاِثْنَيْنِ فَقَالَ « فِيهِ وُلِدْتُ وَفِيهِ أُنْزِلَ عَلَىَّ ».

訳：

アブー・カターダ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は月曜日の断食について尋ねられ、こう言われた。「**その日に私は生まれ、その日に私に（啓示が）下された。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：ズハイル・ブン・ハルブ ← アブドッラフマーン・ブン・マフディー ← マフディー・ブン・マイムーン ← ガイラーン・ブン・ジャリール ← アブドッラー・ブン・マアバド・アッ＝ズィンマーニー ← アブー・カターダ・アル＝アンサーリー رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』断食の書、毎月 3 日間・アラファの日・アーシューラー・月曜日と木曜日の断食を勧める章、ハディース第 1162 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1162e

誕生の年と日付

真正なハディースは誕生の**曜日**、すなわち月曜日を定めています。その**年**については、スィーラの学者の間で有名な見解は**象の年**、すなわちアッラーがアブラハの軍勢を滅ぼされた年です（『クルアーンの物語』第 39 巻を参照）。場所はマッカです。

スィーラの注：誕生の日付

ラビーウ・アル＝アウワル月のどの**日付**に生まれたかについては、学者の見解が分かれています。最も有名なのは**ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日**で、イブン・イスハークの見解です。8 日や 9 日など、別の日付を選ぶ学者もいます。

この見解の違いは何も損ないません。真正なのはかれが**月曜日**に生まれたことであり、より大切なのはかれのスンナに従うこと – かれが実践された月曜日の断食も含めて – です。

称えられる名

スィーラの注：誰が名づけたのか？

スィーラ書の伝承によれば、祖父**アブドルムッタリブ**が孫を**ムハンマド**と名づけました。この名は当時のアラブ人にはあまり使われていませんでした。

言葉の上では、**ムハンマド**は「**大いに称えられる者**」、**アフマド**は「**最もよく（アッラーを）称える者**」あるいは「**最も称えられる者**」を意味します。

ハディースに見るかれの名前

『サヒーフ・ブハーリー』で、アッラーの使徒 ﷺ はご自分のいくつかの名を挙げておられます。**ムハンマド、アフマド、アル＝マーヒー**（かれによってアッラーが不信仰を消し去る者）、**アル＝ハーシル**（人々がかれの後に集められる者）、そして**アル＝アーキブ**（最後の者）。サヒーフ・ブハーリー 3532

アフマドという名は、預言者イーサー عَلَيْهِ السَّلَامُ がもたらした吉報としてクルアーンにも記されています（戦列章 61:6）。

名前	意味
ムハンマド	大いに称えられる者

名前	意味
アフマド	最も称えられる者／最もよく称える者
アル＝マーヒー	かれによって不信仰が消し去られる者
アル＝ハーシル	人々がかれの後に集められる者
アル＝アーキブ	最後の預言者

教訓：**良い名前**は祈りです。子どもたちに意味のある名前をつけ、この最も称えられる名の持ち主の人柄を手本としましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

守られた孤児

朝章 93:6–8

أَلَمْ يَجِدْكَ يَتِيمًا فَـَٔاوَىٰ ٦

かれは孤児のあなたを見付けられ、庇護なされたではないか。

وَوَجَدَكَ ضَآلًّا فَهَدَىٰ ٧

かれはさ迷っていたあなたを見付けて、導きを与え。

وَوَجَدَكَ عَآئِلًا فَأَغْنَىٰ ٨

また貧しいあなたを見付けて、裕福になされたではないか。

訳：三田了一 — quran.com/93:6-8

93:6–8 の解説

第一：母の胎内にいるときからの孤児。 イマーム・イブン・カスィールは「**かれは孤児のあなたを見付けられ**」についてこう説明しています。**父アブドッラーはかれがまだ母の胎内にいるときに亡くなった** – かれが生まれた後に亡くなったとする見解もある。イブン・カスィールのタフスィール 93:6

第二：守りに次ぐ守り。 イブン・カスィールは続けます。その後、母**アーミナ・ビント・ワハブがかれの 6 歳のときに亡くなり**、かれは祖父**アブドルムッタリブに養われ、その祖父もかれの 8 歳のときに亡くなった。**それからおじの**アブー・ターリブ**がかれを養い、守り続けた。「これらはすべて、アッラーの定めとその良き計らいによる」とイブン・カスィールは言います。

省察 – アッラーが守り手となられるとき

父を、母を、そして祖父を失いながらも、かれは**決して守り手なしに放っておかれることはありませんでした。「庇護なされたではないか」**。大切な人を失ったすべての人にとって、この節は癒やしです。

乳母たち

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 5101 番

حَدَّثَنَا الْحَكَمُ بْنُ نَافِعٍ، أَخْبَرَنَا شُعَيْبٌ، عَنِ الزُّهْرِيِّ، قَالَ أَخْبَرَنِي عُرْوَةُ بْنُ الزُّبَيْرِ، أَنَّ زَيْنَبَ ابْنَةَ أَبِي سَلَمَةَ، أَخْبَرَتْهُ أَنَّ أُمَّ حَبِيبَةَ بِنْتَ أَبِي سُفْيَانَ أَخْبَرَتْهَا أَنَّهَا، قَالَتْ يَا رَسُولَ اللَّهِ انْكِحْ أُخْتِي بِنْتَ أَبِي سُفْيَانَ فَقَالَ «أَوَتُحِبِّينَ ذَلِكَ». فَقُلْتُ نَعَمْ، لَسْتُ لَكَ بِمُخْلِيَةٍ، وَأَحَبُّ مَنْ شَارَكَنِي فِي خَيْرٍ أُخْتِي. فَقَالَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم «إِنَّ ذَلِكَ لاَ يَحِلُّ لِي». قُلْتُ فَإِنَّا نُحَدَّثُ أَنَّكَ تُرِيدُ أَنْ تَنْكِحَ بِنْتَ أَبِي سَلَمَةَ. قَالَ «بِنْتَ أُمِّ سَلَمَةَ». قُلْتُ نَعَمْ. فَقَالَ «لَوْ أَنَّهَا لَمْ تَكُنْ رَبِيبَتِي فِي حَجْرِي مَا حَلَّتْ لِي إِنَّهَا لاَبْنَةُ أَخِي مِنَ الرَّضَاعَةِ، أَرْضَعَتْنِي وَأَبَا سَلَمَةَ ثُوَيْبَةُ فَلاَ تَعْرِضْنَ عَلَىَّ بَنَاتِكُنَّ وَلاَ أَخَوَاتِكُنَّ». قَالَ عُرْوَةُ وَثُوَيْبَةُ مَوْلاَةٌ لأَبِي لَهَبٍ كَانَ أَبُو لَهَبٍ أَعْتَقَهَا فَأَرْضَعَتِ النَّبِيَّ صلى الله عليه وسلم فَلَمَّا مَاتَ أَبُو لَهَبٍ أُرِيهِ بَعْضُ أَهْلِهِ بِشَرِّ حِيبَةٍ قَالَ لَهُ مَاذَا لَقِيتَ قَالَ أَبُو لَهَبٍ لَمْ أَلْقَ بَعْدَكُمْ غَيْرَ أَنِّي سُقِيتُ فِي هَذِهِ بِعَتَاقَتِي ثُوَيْبَةَ.

訳：

ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーン رضى الله عنها によれば、彼女は言った。「アッラーの使徒よ、私の妹、アブー・スフヤーンの娘と結婚してください。」..... かれは言われた。**「たとえ彼女（ウンム・サラマの娘）が私の保護下にある継娘でなかったとしても、彼女は私には許されない。彼女は乳による私の姪だからである。私とアブー・サラマはスワイバに授乳された。だから、あなたがたの娘や姉妹を私に勧めてはならない。」** ウルワは言った。スワイバはアブー・ラハブの解放された奴隷で、預言者 ﷺ に授乳した。

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アル＝ハカム・ブン・ナーフィウ ← シュアイブ ← アッ＝ズフリー ← ウルワ・ブン・アッ＝ズバイル ← ザイナブ・ビント・アビー・サラマ ← ウンム・ハビーバ・ビント・アビー・スフヤーン رضى الله عنها。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』婚姻の書、ハディース第 5101 番。ムスリム（第 1449 番）も伝えている。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:5101

このハディースの教訓

アッラーの使徒 ﷺ に授乳した者の一人は、アブー・ラハブの解放奴隷**スワイバ**でした。このハディースはまた、**乳による婚姻禁止（マフラム）**の規定の根拠です。乳兄弟の娘とは結婚できません。かれ ﷺ ご自身がこの規定を厳格に守られました。この伝承の最後の部分 – 夢に現れたアブー・ラハブについて – はウルワの言葉であり、預言者 ﷺ の言葉ではありません。

スィーラの注：ハリーマ・アッ＝サアディーヤとサアド族

スィーラ書 – その一つはイブン・ヒシャームが伝えるイブン・イスハークのスィーラ – によれば、マッカの名家では、空気がきれいで言葉が純粋な砂漠の村へ赤ん坊を送って授乳させる習慣がありました。アッラーの使徒 ﷺ は、**サアド・ブン・バクル族**の**ハリーマ・ビント・アビー・ズアイブ・アッ＝サアディーヤ**に授乳されました。

スィーラ書はまた、かれを引き取った後にハリーマの家族が受けた祝福 – 羊や乗り物が肥えたこと – を伝えています。この話はスィーラ書では有名ですが、**『サヒーフ・ブハーリー』にも『サヒーフ・ムスリム』にも見られず**、その伝承経路の強さについてはハディース学者の見解が分かれています。

真正なハディースが裏づけるのは、かれに**乳母がいた**ということです。次の章の胸を開く出来事のハディース（サヒーフ・ムスリム 162）がそれに触れています。

サアド族の砂漠での暮らし

Wikipedia によれば、ハリーマと夫**アル＝ハーリス・ブン・アブドルウッザー**は、大部族**ハワーズィン**の一支族**サアド・ブン・バクル族**の出身でした。かれらはマッカの喧騒から遠く離れたヒジャーズの奥地で、**ベドウィン**として暮らしていました。

なぜマッカの赤ん坊は砂漠へ送られたのか？

砂漠の利点	説明
きれいな空気	町の混雑やうつりやすい病気から遠い。
純粋な言葉	ベドウィンのアラビア語は最も純粋で雄弁とされた。
丈夫な体	自然の中での生活が体を鍛えた。
部族の絆	乳の絆がクライシュ族とベドウィンの部族との関係を強めた。

これらの利点は、スィーラの学者がマッカの名家の**慣習**として挙げているもので、シャリーアの典拠ではありません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：干ばつの年と祝福

スィーラ書の伝承によれば、ハリーマは**干ばつの年**に、弱った乗り物と乏しい乳を抱えてマッカに来ました。その孤児は、謝礼を払う父親がいないため、ほかの乳母たちに引き取られませんでした。ハリーマがかれを引き取ると、家族の暮らしは祝福されたものになりました。

Wikipedia も、ほかの家畜が死んでいく中で、ハリーマの家の家畜は健康で乳をたくさん出したと伝えています。この祝福の話は**スィーラ書では有名**ですが、「乳母たち」の章で説明したように**二大サヒーフには見られません。**

サアド族のもとでの期間については、伝承が**分かれています。**4〜5 年ほどとするものもあります。

参照：

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

省察

アッラーはご自分の使徒を宮殿ではなく、貧しい一家に見守られた**質素なベドウィンのテント**で育てられました。質素さ、広大な自然、雄弁な言葉が、かれの教育の一部となったのです。

胸を開く出来事

まだ幼く、友だちと遊んでいたとき、驚くべき出来事が起こりました。

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 162 番

حَدَّثَنَا شَيْبَانُ بْنُ فَرُّوخَ، حَدَّثَنَا حَمَّادُ بْنُ سَلَمَةَ، حَدَّثَنَا ثَابِتٌ الْبُنَانِيُّ، عَنْ أَنَسِ بْنِ مَالِكٍ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم أَتَاهُ جِبْرِيلُ صلى الله عليه وسلم وَهُوَ يَلْعَبُ مَعَ الْغِلْمَانِ فَأَخَذَهُ فَصَرَعَهُ فَشَقَّ عَنْ قَلْبِهِ فَاسْتَخْرَجَ الْقَلْبَ فَاسْتَخْرَجَ مِنْهُ عَلَقَةً فَقَالَ هَذَا حَظُّ الشَّيْطَانِ مِنْكَ. ثُمَّ غَسَلَهُ فِي طَسْتٍ مِنْ ذَهَبٍ بِمَاءِ زَمْزَمَ ثُمَّ لأَمَهُ ثُمَّ أَعَادَهُ فِي مَكَانِهِ وَجَاءَ الْغِلْمَانُ يَسْعَوْنَ إِلَى أُمِّهِ - يَعْنِي ظِئْرَهُ - فَقَالُوا إِنَّ مُحَمَّدًا قَدْ قُتِلَ. فَاسْتَقْبَلُوهُ وَهُوَ مُنْتَقِعُ اللَّوْنِ. قَالَ أَنَسٌ وَقَدْ كُنْتُ أَرَى أَثَرَ ذَلِكَ الْمِخْيَطِ فِي صَدْرِهِ.

訳：

アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه によれば、ジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ が、ほかの子どもたちと遊んでいたアッラーの使徒 ﷺ のもとに来た。ジブリールはかれをつかんで横たえ、その胸を開いて心臓を取り出した。そこから血の塊を取り出し、こう言った。「**これはあなたの中のシャイターン（悪魔）の取り分である。**」それからジブリールは金の器の中でそれをザムザムの水で洗い、元どおりに閉じて、もとの場所に戻した。子どもたちはかれの母 – すなわち乳母 – のもとへ走って行き、「ムハンマドが殺された！」と言った。人々がかれのもとへ行くと、かれは顔色が青ざめていた。アナスは言った。**「私はかれの胸に縫い目の跡を見たことがある。」**

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：シャイバーン・ブン・ファッルーフ ← ハンマード・ブン・サラマ ← サービト・アル＝ブナーニー ← アナス・ブン・マーリク رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』信仰の書、アッラーの使徒 ﷺ の天への夜の旅の章、ハディース第 162 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:162c

このハディースの教訓

第一：幼いころからの守り。 アッラーは幼少期から**ご自分の使徒の心を清め**、そこから「シャイターンの取り分」を取り除かれました – 偉大な使命への準備です。

第二：ほかの人も目撃した。 ほかの子どもたちがそれを見ており、アナス رضى الله عنه 自身もかれの胸の**縫い目の跡**を見たことがあります。この出来事は空想ではなく、実際に起きたことです。

第三：乳母がいたことの根拠。 このハディースは、子どもたちが**かれの母 – すなわち乳母** – のもとへ走って行ったと述べており、かれが乳母の村で過ごしたというスィーラの伝承を裏づけています。

胸を広げる章 94:1

أَلَمْ نَشْرَحْ لَكَ صَدْرَكَ ﴿١﴾

われは、あなたの胸を広げなかったか。

訳：三田了一 — quran.com/94:1

94:1 の解説

イマーム・イブン・カスィールは「**われは，あなたの胸を広げなかったか**」を、**われはあなたの胸を照らし、広く大きくした**と説明しています。かれは、ここで意味されているのはイスラー（夜の旅）の夜の胸を開く出来事だとする見解も挙げ、こう言います。**矛盾はない**。なぜなら、物理的に胸を開くことは胸を広げることに含まれ、それによって内面的な広がりも生まれるからである。イブン・カスィールのタフスィール 94:1

省察 – 清められた心

アッラーの使徒 ﷺ の心がジブリール عَلَيْهِ السَّلَامُ によって清められたのなら、私たちの心は**悔悟、ズィクル（アッラーを念じること）、そして知識**によって清められる必

要があります。このハディースは、人の善悪の中心はその心であることを教えています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

母のもとへ

スィーラの注：乳飲み子を返すハリーマ

スィーラ書によれば、胸を開く出来事の後、ハリーマと夫はその子の身を**案じ**、マッカの母アーミナのもとへ連れて帰りました。Wikipedia によれば、かれは **5 歳**ごろ母と祖父のもとへ返されました。

胸を開く出来事そのものは**真正**です（サヒーフ・ムスリム 162）。一方、ハリーマの心配や帰路の詳細は**スィーラ書の伝承**です。

参照：

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

変わらぬハリーマの愛

乳の家族との関係は途切れませんでした。Wikipedia によれば、かれがハディージャ رضى الله عنها と結婚した後、ハリーマが暮らしの苦しさを訴えにマッカへ来たとき、ハディージャは彼女に**羊とラクダ**を与えました。かれは常に乳母とその家族を**敬いました**。

教訓：何年経っても、**恩を受けた人に善を尽くす**こと。乳母、先生、育ててくれた人は、みな私たちに思い出され、祈られる権利があります。

母と過ごした年月

子どもは今、祖父アブドルムッタリブの庇護のもと、マッカで母とともに暮らしていました。この時期は**短く**、わずか 1 年ほどでした。その後、かれの人生を変えるヤスリブへの旅が待っていました。それは次の章で述べます。

母との別れ

イブン・カスィールによれば、かれの母アーミナ・ビント・ワハブは、かれが**6歳**のときに亡くなりました。何年も後、アッラーの使徒ﷺは母の墓を訪れました。

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 976 番

حَدَّثَنَا أَبُو بَكْرِ بْنُ أَبِي شَيْبَةَ، وَزُهَيْرُ بْنُ حَرْبٍ، قَالاَ حَدَّثَنَا مُحَمَّدُ بْنُ عُبَيْدٍ، عَنْ يَزِيدَ بْنِ كَيْسَانَ، عَنْ أَبِي حَازِمٍ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، قَالَ زَارَ النَّبِيُّ صلى الله عليه وسلم قَبْرَ أُمِّهِ فَبَكَى وَأَبْكَى مَنْ حَوْلَهُ فَقَالَ «اسْتَأْذَنْتُ رَبِّي فِي أَنْ أَسْتَغْفِرَ لَهَا فَلَمْ يُؤْذَنْ لِي وَاسْتَأْذَنْتُهُ فِي أَنْ أَزُورَ قَبْرَهَا فَأُذِنَ لِي فَزُورُوا الْقُبُورَ فَإِنَّهَا تُذَكِّرُ الْمَوْتَ».

訳：

アブー・フライラ رضي الله عنه によれば、かれは言った。預言者ﷺは母の墓を訪れて泣かれ、周りの人々も泣いた。かれは言われた。「**私は主に、彼女のために赦しを請う許しを求めたが、許されなかった。そして彼女の墓を訪れる許しを求めると、許された。だから墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから。**」

伝承経路 イマーム・ムスリムの伝承：アブー・バクル・ブン・アビー・シャイバとズハイル・ブン・ハルブ ← ムハンマド・ブン・ウバイド ← ヤズィード・ブン・カイサーン ← アブー・ハーズィム ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』葬儀の書、預言者ﷺが母の墓を訪れる許しを主に求めた章、ハディース第 976 番。

等級： サヒーフ（真正）― 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:976b

このハディースの教訓

第一：子の愛。 アッラーの使徒ﷺは母の墓で**泣かれ**、周りの人々も泣きました ― 母への愛は時が経っても消えません。

第二：墓参り。 かれはこの出来事を共同体への教訓とされました。**墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから。**

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron ― ムスリムのための無料版

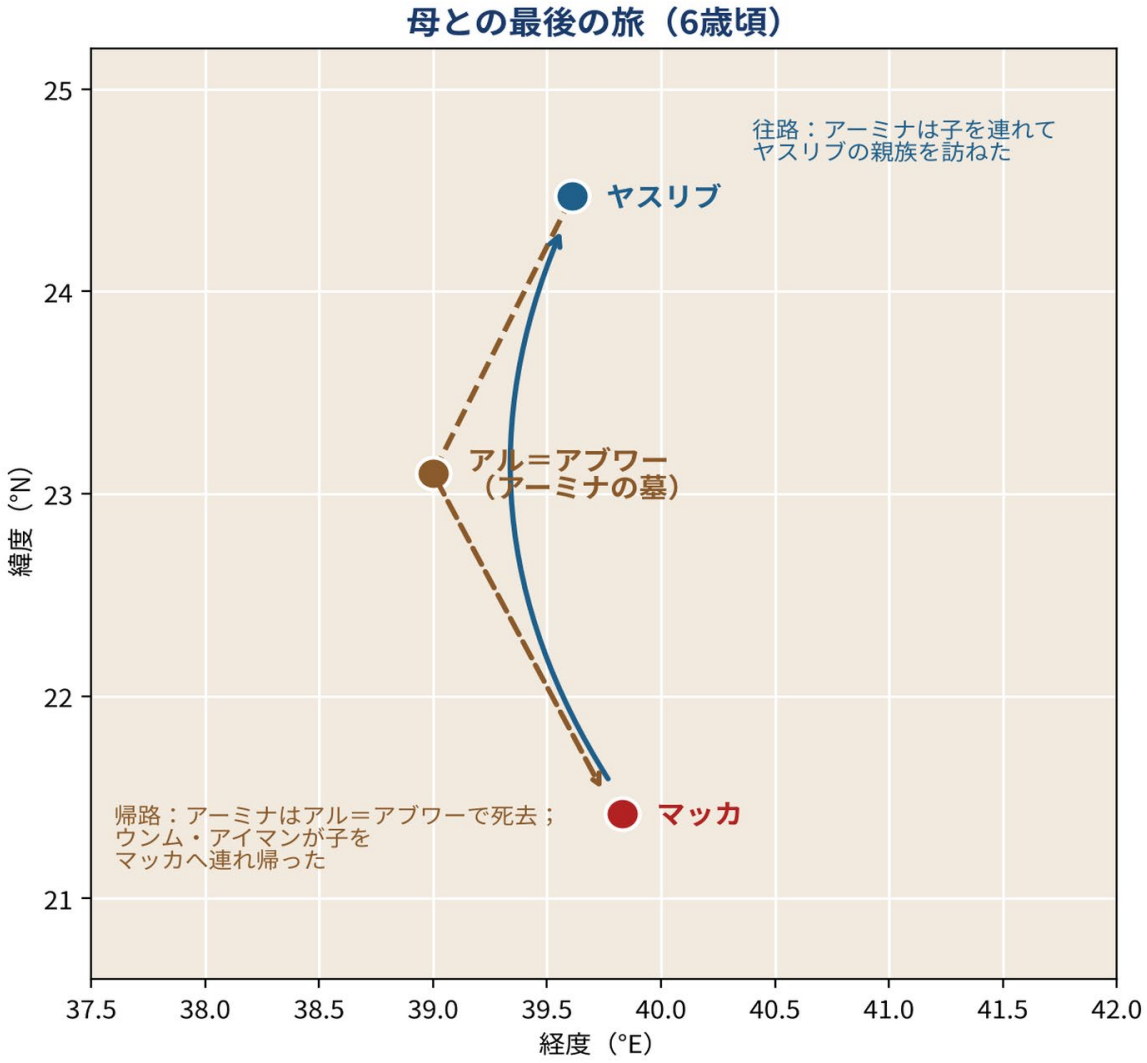
第三：アッラーへの服従。 かれは、最も愛する人に関わることであっても、アッラーがお許しにならないことについてはアッラーの決定に従われました。

スィーラの注：アル＝アブワー

スィーラ書によれば、アーミナはかれを連れてマディーナ（ヤスリブ）の親族を訪ね、帰路、マッカとマディーナの間にある**アル＝アブワー**で亡くなり、そこに葬られました。

ウンム・アイマン：誠実な養育者

ヤスリブからの帰路、アーミナがアル＝アブワーで亡くなったとき、一人の女性がその孤児のそばにいました。**バラカ・ビント・サアラバ**、**ウンム・アイマン**として知られる人です。



概略図。アル＝アブワーの位置は推定。出典：Wikipedia「Amina bint Wahb」「Umm Ayman」。

図 4：アッラーの使徒ﷺと母との最後の旅（概略図）。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：ウンム・アイマンとは？

Wikipedia によれば、ウンム・アイマンは**ハバシャ（エチオピア）**の出身で、アブドッラーとアーミナの家の奴隷でした。アーミナの死後、彼女は**その子の世話をし**、マッカの祖父の家へ連れて行きました。

かれはハディージャ ***memerdekakan*** と結婚したとき、ウンム・アイマンを解放しました。ウンム・アイマンはウバイド・ブン・ザイドと結婚して**アイマン**という子をもうけ、のちに**ザイド・ブン・ハーリサ**と結婚して**ウサーマ**を産みました。ウサーマはやがて軍の司令官となります。彼女は早くにイスラームに入信した一人で、マディーナへ移住し、ウフドの戦いでは水を配り、負傷者の手当てをしました。

参照：

Wikipedia「Umm Ayman」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman

教訓

第一：尊さは肌の色にはない。 ハバシャの一人の女性がアッラーの使徒 ﷺ の養育者となり、かれの生涯を通じて敬われました。

第二：誠実には誠実で報いる。 かれは彼女を解放し、愛する人と結婚させ、敬いました。

第三：孤児の守り手。 母を失った後、アッラーは愛情深い養育者を授けられました – 93:6 に述べられた守りのもう一つのしるしです。

祖父とおじに守られて

母の死後、かれはクライシュ族の長である祖父**アブドルムッタリブ**に養われ、その祖父もかれの8歳のときに亡くなりました。その後、アブドッラーの実の兄弟であるおじ**アブー・ターリブ**がかれを養いました — イブン・カスィールが朝章 93:6 のタフスィールで述べているとおりです。

羊の放牧

それ以前の預言者たちと同じように、アッラーの使徒 ﷺ もわずかな報酬でマッカの人々の**羊を放牧**したことがあります。

ハディース — 『サヒーフ・ブハーリー』第 2262 番

حَدَّثَنَا أَحْمَدُ بْنُ مُحَمَّدٍ الْمَكِّيُّ، حَدَّثَنَا عَمْرُو بْنُ يَحْيَى، عَنْ جَدِّهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ ـ رضى الله عنه ـ عَنِ النَّبِيِّ صلى الله عليه وسلم قَالَ «مَا بَعَثَ اللَّهُ نَبِيًّا إِلاَّ رَعَى الْغَنَمَ». فَقَالَ أَصْحَابُهُ وَأَنْتَ فَقَالَ «نَعَمْ كُنْتُ أَرْعَاهَا عَلَى قَرَارِيطَ لأَهْلِ مَكَّةَ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、預言者 ﷺ は言われた。「**アッラーが遣わされた預言者で、羊を放牧しなかった者はいない。**」教友たちが「あなたもですか？」と尋ねると、かれは答えられた。「**そうだ。私はかつて、数キーラートの報酬でマッカの人々の羊を放牧していた。**」

伝承経路 イマーム・ブハーリーの伝承：アフマド・ブン・ムハンマド・アル＝マッキー ← アムル・ブン・ヤフヤー ← その祖父サイード・ブン・アムル ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ブハーリー『サヒーフ・ブハーリー』雇用の書、数キーラートの報酬で羊を放牧する章、ハディース第 2262 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ブハーリー』に収録。ハディース学者の総意により、クルアーンに次いで最も真正な書である。

典拠：https://sunnah.com/bukhari:2262

このハディースの教訓

第一：自分の手で働く。 かれは他人に頼らず、わずかな報酬であっても**糧を得るために働かれました。**

第二：指導者としての訓練。 学者たちは、羊の放牧が**忍耐、優しさ、責任感** – 人々を導くのに必要な資質 – を養うと述べています。

第三：出自を恥じない。 かれは質素な仕事を恥じることなく、ご自分から教友たちに語られました。

アブー・ターリブ：貧しくとも高潔なおじ

Wikipedia によれば、アブー・ターリブ – 資料によって本名は**イムラーン**とも**アブド・マナーフ**ともいう – は、母**ファーティマ・ビント・アムル**を同じくするアブドゥッラーの**実の兄弟**でした。アブドルムッタリブの死後、アブー・ターリブは、**暮らしが苦しい**にもかかわらず甥を引き取りました。

スィーラの注：狭い家、広い心

Wikipedia によれば、アブー・ターリブは**貧しく**、子どもが多くいました。その中には**アリー、ジャアファル、アキール、ターリブ、ウンム・ハーニー（ファーキタ）**がいます。かれは巡礼者をもてなす務めを果たすため、兄弟の**アル＝アッバース**からお金を借りたこともありました。

それでもかれは、愛情深く甥を守りました。のちにかれが使徒として遣わされると、アブー・ターリブはクライシュの指導者たちからかれを**守り**、そのためにハーシム家はボイコットされました。アブー・ターリブは **619 年**ごろ亡くなりました。この年は、ハディージャ ***Tahun Dukacita*** も近い時期に亡くなったため、「悲しみの年」と呼ばれています。

参照：

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

大家族の中の子ども

アブー・ターリブの家で、かれはいとこたちとともに育ちました。その中には、のちに最初期にイスラームに入信した一人となる**アリー・ブン・アビー・ターリブ** رضى الله عنه や、ハバシャへ移住した**ジャアファル** رضى الله عنه がいました。この質素な暮らしが、かれが幼いころから**羊を放牧して働いた**理由を説明しています。

教訓

貧しさは**高潔な人柄**を妨げません。アブー・ターリブは、住まい、愛情、守りと、持てるものを与えました。私たちも、限られた力であっても、家族の中の孤児の守り手になることができます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

かれの幼少期のマッカ社会

アッラーの使徒 ﷺ は、**二つの顔**を持つ社会で育ちました。預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の宗教とアラブ文化から受け継がれた美徳と、のちにイスラームによって正される**ジャーヒリーヤの慣習**です。

美徳	ジャーヒリーヤの慣習
客人と巡礼者を手厚くもてなす	カアバの周りで偶像を崇拝する
約束を守り、保護を求める者を守る	ささいなことで部族間が戦う
勇敢さと言葉の雄弁さ	女児を生き埋めにする（81:8–9 を参照）
聖月を敬う	利子（リバー）と弱者への不正

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

スィーラの注：ウカーズの市

Wikipedia によれば、**ウカーズの市**はナフラとターイフの間にありました。巡礼の季節の前、**ズル・カアダ月**に毎年**21日間**開かれました。交易のほか、アラブの諸部族は争いを解決し、盟約を結び、競走をし、アラビア語の文法の形成に役立った**詩の競演**を催しました。

このような市は、当時アラビア語が**雄弁さの頂点**にあったことを示しています – そして雄弁さを重んじるこの民族に、クルアーンは言葉の奇跡として下されたのです。

参照：

Wikipedia「Souk Okaz」。https://en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

フバルとカアバの偶像

Wikipedia によれば、カアバで最も重要な偶像はクライシュ族が置いた**フバル**で、**マッカ征服まで**そこにありました。これらの偶像の周りで育った孤児が、やがてカアバを**偶像から清める**使徒となるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

聖月

部族間の戦いはしばしば起きましたが、アラブ人は預言者イブラーヒーム ***empat bulan haram*** の宗教から受け継いだ四つの聖月を敬っていました。イスラームはこの敬意を保ち（悔悟章 9:36）、アッラーの使徒 ﷺ は別離の巡礼の説教でその名を挙げられました（サヒーフ・ブハーリー 4662）。

聖月	暦の中の位置
ズル・カアダ	第 11 月；ウカーズの市の季節
ズル・ヒッジャ	第 12 月；巡礼の季節
ムハッラム	第 1 月
ラジャブ	第 7 月；ほかの三つとは離れている

親と養育者への教訓

アッラーの使徒 ﷺ の幼少期は単なる歴史ではなく、すべての親、祖父母、孤児の養育者のための**教育の手引き**です。この章では、これまでの章から実践的な教訓をまとめます。

スィーラから	私たちの実践
アブドルムッタリブは良い名前を選んだ。	子どもに良い、意味のある名前をつける。
赤ん坊は空気のきれいな砂漠へ送られた。	子どもが育つための健康で良い環境を選ぶ。
ベドウィンの雄弁な言葉。	幼いころから子どもに美しい言葉とクルアーンの読誦を教える。
愛情深いウンム・アイマンとハリーマ。	信頼でき、人柄の良い養育者を選ぶ。
アブー・ターリブは貧しくとも守った。	家族の中の孤児を守り手なしに放っておかない。
幼いころからの羊の放牧。	年齢にふさわしい責任で子どもを鍛える。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

私たちの社会の孤児

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が孤児でした。だから孤児を大切にすることは**スンナを生かすこと**であり、かれのスィーラを思い起こすことでもあります。かれは、孤児を養う者に天国でかれの近くの位置を約束されました（サヒーフ・ブハーリー 5304）。

簡単な方法の例：孤児の学用品を**支援する**、家族で孤児院を**訪問する**、クルアーンの読み方を**教える**、あるいは励ましを与える**聞き手になる**。小さな努力の一つひとつが、93:6 に述べられた「守り」の一部なのです。

省察

アッラーはご自分の使徒を**人々の手**を通して育てられました。母、乳母、養育者、祖父、おじ。アッラーは私たちをも、助けを必要とする子どもにとっての「手」の一つにしたいと望まれているのかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

真正な伝承と有名な話のあいだ

アッラーの使徒 ﷺ の誕生と幼少期については、多くの話が社会に広まっています。真正なものもあれば、スィーラ書からのもの、弱いものもあります。下の表にまとめます。

話とその評価

有名な話	評価
かれは月曜日に生まれた。	真正（サヒーフ・ムスリム 1162）。
かれは象の年のラビーウ・アル＝アウワル月 12 日に生まれた。	象の年はスィーラの学者の有名な見解。12 日はイブン・イスハークの見解で、学者の見解は分かれる。
かれはスワイバに授乳された。	真正（サヒーフ・ブハーリー 5101）。
かれはハリーマに授乳され、彼女の羊が肥えた。	スィーラ書の伝承（イブン・イスハーク）。二大サヒーフには見られない。
幼いころ、ジブリールがかれの胸を開いた。	真正（サヒーフ・ムスリム 162）。
誕生の夜、ホスローの宮殿が揺れ、ゾロアスター教の火が消えた。	ハディース学者によれば弱い伝承。本書の解説には含めていない。
かれは割礼を受けた状態で生まれた。	ハディース学者によれば弱い伝承。本書の解説には含めていない。
アブドルムッタリブは夢を見た後、ザムザムを掘り直した。	スィーラ書の伝承。歴史家に広く受け入れられている。
アブドッラーは百頭のラクダで贖われた。	スィーラ書の伝承。真正なハディースではない。
アブドッラーはかれの誕生前にヤスリブで亡くなった。	スィーラ書の伝承。イブン・カスィールのタフスィール 93:6（母の胎内にいるときからの孤児）が裏づける。
ウンム・アイマンがアル＝アブワーからかれを連れ帰った。	スィーラ書と教友の伝記の伝承。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

有名な話	評価
修道士バヒーラがシャームへの旅の途中でかれを見分けた。	ティルミズィーが伝える。内容の一部は学者の間で議論がある。次巻で扱う。

省察 – なぜ真正なものを選ぶのか

アッラーの使徒 ﷺ の物語は、美しくあるために**付け足しを必要としません**。真正な伝承だけで、愛と信仰を深めるには十分です。真正なものを選ぶことで、私たちは知識の託された責任を守り、起こらなかったことをかれに帰することを避けるのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

6 世紀の世界

アッラーの使徒 ﷺ はマッカで生まれましたが、マッカは孤立した島ではありませんでした。その谷は揺れ動く世界に囲まれていました。二つの大帝国が戦いを繰り返し、小さな王国が交易路を奪い合い、疫病が何百万もの命を奪ったこともありました。この世界を理解すると、乾いた谷の一人の孤児がもたらした変化がいかに大きかったかが見えてきます。

互いに争う二つの帝国

北には、コンスタンティノープルを都とする**東ローマ帝国（ビザンツ）**がありました。名高い皇帝ユスティニアヌス 1 世は 527 年から 565 年まで統治しました – かれの誕生の数年前までです。東には、現在のバグダード近郊のクテシフォンを都とする**ペルシア帝国（サーサーン朝）**がありました。「アヌーシルワーン」と呼ばれた王ホスロー1 世は 531 年から 579 年まで統治しました。つまり、かれはこのペルシア王の治世に生まれたのです。

二つの帝国は、シャーム、イラク、アルメニア、そして交易路の支配をめぐって何度も戦いました。572 年、かれがまだ赤ん坊だったころ、両国の間で再び大戦争が起こり、20 年近く続きました。国境のアラブ部族も巻き込まれ、ガッサーン族はローマと、ヒーラのラフム族はペルシアと同盟しました。

> **歴史の注：ユスティニアヌスのペスト**
>
> 541 年から 549 年にかけて、歴史家が**ユスティニアヌスのペスト**と呼ぶ恐ろしい疫病が、ローマの領土とその周辺を襲いました。現代の歴史家は数百万人が亡くなったと推定しています。この疫病は、アッラーの使徒 ﷺ の誕生のわずか数十年前に大帝国を弱らせました。実際の死者数については今も研究者の間で議論があります。

出典：Wikipedia, “Justinian I”；Wikipedia, “Khosrow I”；Wikipedia, “Plague of Justinian”。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

ハバシャ、イエメン、そしてアブラハ

紅海の対岸には**アクスム王国（ハバシャ）**がありました。525 年ごろ、アクスムは海を渡ってイエメンのヒムヤル王国を征服しました。この軍勢の中からアブラハが現れ、のちにイエメンを治め、ついには象を連れた軍勢を率いてマッカへ向かいました。アブラハの死とその息子たちの没落の後、570 年代初めにイエメンはペルシアの手に落ちました。

象章に語られる象の年の物語は、こうした権力争いのただ中で起こりました。しかしアッラーは、ご自分の館をローマやペルシアの軍勢によってではなく、遣わされた鳥たちによって守られたのです。

当時の東南アジア

かれが生まれたころ、マレー世界にはすでに活発な交易港がありました。クダの**ブジャン渓谷**の古代遺跡は、何世紀にもわたる交易と職人の活動を示しており、マラッカ海峡の港はインドと中国を行き来する船の寄港地でした。シュリーヴィジャヤ王国はまだ現れておらず、歴史に記録されるのは約 1 世紀後のことです。イスラームが私たちの地域に届いたのはずっと後、商人と宣教者を通してでした – しかし、そのすべてはこのマッカの谷での誕生から始まったのです。

出典：Wikipedia, “Bujang Valley”；Wikipedia, “Srivijaya”。

教訓

アッラーは最後の使徒を、壮麗な帝国の都ではなく、ローマもペルシアも顧みない谷に誕生させることを選ばれました。尊さは世俗の権力では測られません。今日の大国の前で自分を小さく感じるとき、人類史上最大の変化が最も質素な場所から始まったことを思い出しましょう。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの重要な場所

次の表は、本書に登場する場所、スィーラとの関わり、そしてマッカからのおおよその距離をまとめたものです。距離は現代の地図の座標から計算した**直線距離**（鳥が飛ぶ距離）です。隊商路を通る実際の道のりはもっと長くなります。

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
マッカ	アッラーの使徒 ﷺ の生誕地。カアバとザムザムの谷。	—
ヌール山（ヒラーの洞窟）	マッカ周辺で最も高い山。のちに最初の啓示が下る場所。	約 5km
ターイフ	サアド族の集落とウカーズの市に近い山の町。	約 60km
サアド族の砂漠	かれがハリーマに授乳された場所。マッカとターイフの間の地域にある（正確な位置は不明）。	推定
ヤスリブ（マディーナ）	アブドゥッラーが亡くなり葬られた場所。祖父の母方の家族（ナッジャール家）の地。	約 340km
アル＝アブワー	ヤスリブからの帰路にアーミナが亡くなった場所。マッカとマディーナの間。	推定
ガザ	かれの曾祖父ハーシムが交易中に亡くなった場所。	約 1,240km
ブスラー（シャーム）	シャーム南部の交易都市。クライシュの夏の隊商の目的地。	約 1,280km
サナア（イエメン）	アブラハの統治の拠点。冬の隊商の目的地。	約 820km
マアリブ（イエメン）	アブラハが修復した古代ダムの遺跡（次の章を参照）。	約 880km
アクスム（ハバシャ）	アブラハの時代にイエメンを支配したハバシャ王国の中心。	約 820km

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

場所	このシリーズとの関わり	マッカからの距離
クテシフォン（イラク）	サーサーン朝ペルシア帝国の都。	約 1,380km
コンスタンティノープル	東ローマ帝国の都（現在のイスタンブール）。	約 2,410km

距離は現代の座標から計算して丸めたもので、目安としての推定値です。

クライシュの二つの交易路

クライシュ族章は**冬と夏の隊商**について述べています。注釈者たちは、冬にはクライシュの隊商が南のイエメンへ、夏には北のシャームへ向かったと説明しています。上の表を見ると、片道だけで千キロ以上の砂漠を越える旅であり、ラクダで何週間もかかる道のりでした。のちにアッラーの使徒 ﷺ ご自身も、大人になってこの道で交易をすることになります。

教訓

マッカには川も農地もありませんでしたが、アッラーはそこを、イエメン、シャーム、ハバシャ、イラクを結ぶ交易路の交差点とされました。この位置が、のちにイスラームのメッセージが広まるのを助けました。糧や機会は必ずしも肥沃な土地から来るのではなく、アッラーから来るのです。アッラーは私たちの思いもよらない方法でその道を開かれます。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

歴史の足跡：碑文と古代遺跡

クルアーンの真実は考古学の発見に左右されるものではありません。しかし、研究者に認められた確かな発見の中には、アッラーの使徒 ﷺ の誕生の時代背景を理解する助けになるものがあります。この章では、明確な典拠のある発見のみを取り上げ、確認されていない主張は含めていません。

マアリブのダムにあるアブラハの碑文（548 年）

イエメンのマアリブには、研究者に ***CIH 541*** として知られる、**548 年**の碑文があります。この碑文はアブラハ自身の命令で作られました。マアリブの大ダムの修復工事を記録し、ハバシャ、ローマ、ペルシア、そしてガッサーン族からの使節が出席した会議にも触れています。これは、アブラハが強大な支配者であり、世界の大国と交流していたことを示しています。

マアリブにあるサバア王国の古代遺跡は、ダムの遺構を含めて **2023 年にユネスコ世界遺産**に登録されました。

出典：Wikipedia, “CIH 541”；UNESCO, “Landmarks of the Ancient Kingdom of Saba, Marib”。

ムライガーンのアブラハの碑文（552 年）

552 年の別のアブラハの碑文が、アラビア半島内陸のムライガーン地域で発見されています。それは、マアッド諸部族を従わせるためにアブラハが半島中央部へ行った軍事遠征を記録しています。この碑文は、アブラハが実際にイエメンからはるか北へ軍を率いたことを証明しています。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版

歴史の注：碑文が語らないこと

これまでに発見されたアブラハの碑文は**マッカに言及していません**。一部の西洋の研究者は象の遠征はもっと早い 552 年ごろだったと提案していますが、イスラームの伝統で有名な見解は 570 年ごろです。2025 年には、象に言及している可能性のあるアブラハの碑文の断片が発表されましたが、その読みはまだ提案の段階です。

ムスリムにとって、象の年の出来事は確かです。アッラーご自身が象章でそれを語られ、それを目撃した人がまだ多く生きていたクライシュ族に読み聞かされても、誰一人否定しなかったからです。研究者の見解の違いは年についてであって、出来事が起きたかどうかではありません。

出典：Wikipedia, “Abraha”。

カルヤト・アル＝ファウ：砂漠の真ん中の隊商都市

現在のサウジアラビア南部には、アラビア半島の古代隊商路にあった交易都市**カルヤト・アル＝ファウ**の遺跡があります。発掘によって、住居、市場、礼拝所、文字、さまざまな土地からの交易品が見つかりました。この町は 5 世紀ごろに放棄されました。2024 年、この遺跡はユネスコの世界遺産に登録されました。

アル＝ファウのような遺跡は、クライシュ族の暮らしの鼓動だった隊商の世界を思い描く助けになります。砂漠を越える長い旅、交易都市での休息、そして民族間の品物と知らせの交換です。

出典：UNESCO, “Al-Faw Archaeological Area”。

教訓

考古学に対するムスリムの態度は公正なものです。確かな発見は受け入れ、根拠のない主張は退け、啓示を石や土に依存させない。クルアーンは、現代のどの研究者がアラビア半島を掘るよりもずっと前に、象の年の物語を語っていたのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

このシリーズの人物

次の表は、アッラーの使徒 ﷺ の家系、誕生、幼少期の物語に登場する人物をまとめたもので、読者が一人ひとりの立場を覚えやすいようにしています。

人物	続柄：アッラーの使徒 ﷺ	備考
ハーシム・ブン・アブド・マナーフ	曾祖父（父の祖父）	クライシュの指導者。二つの交易の旅と結びつけられる。ガザで死去。
アブドルムッタリブ（シャイバ）	祖父	象の年のマッカの指導者。ザムザムを掘り直す。8歳までかれを養った。
アブドッラー・ブン・アブドルムッタリブ	父	かれの誕生前にヤスリブで死去。
アーミナ・ビント・ワハブ	母	ズフラ家の出身。かれが6歳ごろ、アル＝アブワーで死去。
スワイバ	最初の乳母	アブー・ラハブの奴隷。アブー・サラマにも授乳した（サヒーフ・ブハーリー 5101）。
ハリーマ・アッ＝サアディーヤ	乳母	サアド・ブン・バクル族の出身。砂漠でかれを育てた。
アル＝ハーリス・ブン・アブドルウッザー	乳父	ハリーマの夫。
アッ＝シャイマー・ビント・アル＝ハーリス	乳姉	ハリーマの娘。スィーラ書によれば、幼いかれの世話も手伝った。
ウンム・アイマン（バラカ）	養育者	ハバシャ出身。アル＝アブワーからかれを連れ帰った。のちにイスラームに入信。
アブー・ターリブ	おじ	アブドルムッタリブの死後かれを養い、生涯守った。

人物	続柄：アッラーの使徒ﷺ	備考
ファーティマ・ビント・アサド	アブー・ターリブの妻	スィーラ書によれば、アブー・ターリブの家でかれの世話をした。のちにイスラームに入信。アリーの母。
ハムザとアル＝アッバース	おじ	かれとほぼ同年代。二人ともやがてイスラームに入信。
アブー・ラハブ	おじ	のちにかれに敵対。棕櫚章（マサド章）に言及。
アブラハ	家族ではない	ハバシャの代理としてイエメンを治めた支配者。象の軍勢を率いてマッカへ進んだ。

出典：イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』；サヒーフ・ブハーリー 5101；Wikipedia（上記の人物の記事）。

教訓

一人の孤児を守るために、アッラーがどれほど多くの人を動かされたかを見てください。祖父、母、二人の乳母、一人の養育者、おじとその妻。一人ひとりが大きな歴史の中で小さな役割を果たしました。私たちも同じです – 一人の子ども、孤児、あるいは教え子の人生における私たちの役割は、アッラーのより大きな計画の一部なのかもしれません。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表：スィーラと世界

この年表は、本書のスィーラの出来事を同じ時代の世界の大きな出来事と並べたものです。当時のアラブ人には決まった暦がなかったため、スィーラの出来事の西暦年は現代の歴史家による推定です。

年（推定）	出来事
496〜497 年頃	アブドルムッタリブがヤスリブで誕生。父ハーシムはガザで死去。
525 年頃	ハバシャ（アクスム）がイエメンのヒムヤル王国を征服。
527〜565 年	東ローマのユスティニアヌス 1 世の治世。
531〜579 年	ペルシアのホスロー1 世（アヌーシルワーン）の治世。
541〜549 年	ユスティニアヌスのペストがローマの領土とその周辺を襲う。
548 年	マアリブのダムにアブラハの碑文（CIH 541）。
552 年	半島中央部への遠征を記したムライガーンのアブラハの碑文。
570 年頃	象の年。月曜日にアッラーの使徒ﷺが誕生（サヒーフ・ムスリム 1162）。
570 年代初め	アブラハの息子たちの統治が崩壊し、イエメンはペルシアの手に落ちる。
572 年	ローマとペルシアの大戦争が始まる（591 年まで続く）。
574 年頃	サアド族の砂漠で胸を開く出来事（サヒーフ・ムスリム 162）。
576〜577 年頃	アーミナがアル＝アブワーで死去。
578 年頃	アブドルムッタリブが死去。アブー・ターリブがかれを養う。
581 年頃	隋が中国を統一。

出典：Wikipedia（「Justinian I」「Khosrow I」「Plague of Justinian」「Abraha」「CIH 541」「Byzantine–Sasanian War of 572–591」「Sui dynasty」）；本書の前の章の年表。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

教訓

世界が帝国の戦争や疫病に追われていたとき、アッラーは静かな谷で、全人類に光をもたらす一人の子どもを準備されていました。歴史は単なる年号の一覧ではありません。それは、アッラーがその時代の人々がしばしば気づかない英知をもって世界を治めておられることを示しているのです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

よくある質問

以下は、アッラーの使徒 ﷺ の誕生と幼少期についてよく尋ねられる質問と、本書で取り上げた典拠に基づく短い答えです。

1. アッラーの使徒 ﷺ は実際にはいつ生まれたのですか？

真正なハディースによって確かなのは**月曜日**であることです（サヒーフ・ムスリム 1162）。年は有名な見解によれば象の年、すなわち 570 年ごろです。ラビーウ・アル＝アウワル月 12 日はイブン・イスハークの有名な見解ですが、実際の日付については学者の見解が分かれています。

2. かれの父はかれが生まれる前に亡くなったのですか？

はい。スィーラ書の有名な見解によれば、アブドッラーはかれがまだ母の胎内にいるときにヤスリブで亡くなりました。イマーム・イブン・カスィールは朝章 93:6 のタフスィールでこれに触れています。

3. 最初にかれに授乳したのは誰ですか？

アブー・ラハブの奴隷スワイバです。『サヒーフ・ブハーリー』5101 に記されています。その後、スィーラ書によれば、かれはサアド族の砂漠でハリーマ・アッ＝サアディーヤに授乳されました。

4. なぜマッカの赤ん坊は砂漠へ送られたのですか？

それはマッカの名家の慣習でした。砂漠は空気がきれいで、暮らしはたくましく、アラビア語はより純粋でした。これは当時の社会の習慣であり、崇拝行為ではありません。

5. 胸を開く出来事は本当に起きたのですか？

はい。『サヒーフ・ムスリム』162 にアナス・ブン・マーリク رضى الله عنه から伝えられており、かれ自身、かれの胸に縫い目の跡を見たことがあると述べています。

6. 誕生の夜にホスローの宮殿が揺れたというのは本当ですか？

この話は有名ですが、ハディース学者によればその伝承は弱いものです。そのため本書の解説には含めていません（「真正な伝承と有名な話のあいだ」の章を参照）。

7. 母が亡くなったとき、かれは何歳でしたか？

イブン・カスィールとスィーラ書によれば、6 歳ごろです。アーミナはヤスリブからの帰路にアル＝アブワーで亡くなり、ウンム・アイマンがかれをマッカへ連れ帰りました。

8. かれの母の墓を訪れてもよいのですか？

アッラーの使徒 ﷺ ご自身が母の墓を訪れて泣かれ、こう言われました。「墓を訪れなさい。それは死を思い起こさせるのだから」（サヒーフ・ムスリム 976）。教訓を得るための墓参りはスンナです。作法を守り、禁じられたことを避けることが条件です。

9. なぜかれは羊を放牧したのですか？

かれは、すべての預言者が羊を放牧したと言われ、ご自身も数キーラートの報酬でマッカの人々の羊を放牧していました（サヒーフ・ブハーリー 2262）。学者たちは、それが忍耐、優しさ、指導力を養うと述べています。

10. アブー・ターリブはイスラームに入信したのですか？

真正なハディース（サヒーフ・ブハーリー 3884；サヒーフ・ムスリム 24）によれば、アブー・ターリブは生涯かれを守ったものの、信仰告白（シャハーダ）を唱えずに亡くなりました。この件については、イン・シャー・アッラー、次巻でさらに詳しく扱います。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

11. アブラハの碑文は象の年の出来事を証明しているのですか？

碑文は、アブラハがイエメンを治め、半島中央部へ軍を率いたことを証明していますが、今のところマッカには触れていません。ムスリムがこの出来事を信じるのは、石碑のためではなく、クルアーンが象章でそれを語っているからです（「歴史の足跡」の章を参照）。

12. かれの幼少期から、私たちはどのような実践を学べますか？

たとえば、良い名前をつけること、子どものために健康な環境を選ぶこと、養育者や先生に感謝すること、孤児を大切にすること、子どもに責任を持たせて鍛えること、そしてかれの誕生への感謝として月曜日に任意の断食をすること（サヒーフ・ムスリム 1162）です。

教訓

質問することは知識の鍵です。アッラーの使徒 ﷺ についての話を聞いたら、「その典拠は何か、そしてそれは真正か？」と問う習慣をつけましょう。そうすれば、かれへの私たちの愛は、付け足された話ではなく、真実の上に築かれます。

教訓と結び

本書からの教訓

第一：アッラーの使徒 ﷺ は祈りへの答えである。 カアバのそばでの預言者イブラーヒーム عَلَيْهِ السَّلَامُ の祈りを、アッラーは聞き届けられた（2:129）。

第二：選ばれた家系。 アッラーはかれを、ハーシム家、クライシュ、キナーナ、そしてイスマーイールの子孫から選ばれた（サヒーフ・ムスリム 2276）。

第三：特別な月曜日。 かれが生まれ、啓示が下った日。この日の断食が勧められる（サヒーフ・ムスリム 1162）。

第四：アッラーは孤児の守り手。 喪失に次ぐ喪失の中でも、アッラーは常に守りを与えられた（93:6）。

第五：清められた心。 使命への準備は幼いころから始まっていた（サヒーフ・ムスリム 162）。

第六：働くことの尊さ。 アッラーの使徒 ﷺ はわずかな報酬で羊を放牧された（サヒーフ・ブハーリー 2262）。

第七：アッラーは乾いた谷で祈りを聞き届けられる。 マッカには作物がないが、その糧はあらゆる方角からやって来る（14:37）。

第八：安全と糧はアッラーから。 だからカアバの主に仕えよ（106:3–4）。

第九：恩人に感謝する。 ハリーマとウンム・アイマンは、かれの生涯を通じて敬われた。

第十：導きはアッラーからの恵み。 かれのおじたちは、同じ血を引きながらも態度が異なった。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

年表のまとめ

年齢（推定）	出来事と典拠
誕生前	アブドッラーがヤスリブで死去（スィーラ書；イブン・カスィール 93:6）
0 歳	象の年の月曜日、マッカで誕生（サヒーフ・ムスリム 1162）
0〜2 歳	スワイバ、次いでハリーマに授乳される（サヒーフ・ブハーリー 5101；スィーラ書）
4 歳頃	サアド族のもとで胸を開く出来事（サヒーフ・ムスリム 162）
5 歳頃	マッカの母のもとへ戻る（スィーラ書）
6 歳頃	アーミナがアル＝アブワーで死去。ウンム・アイマンが連れ帰る（イブン・カスィール 93:6；スィーラ書）
8 歳頃	アブドルムッタリブが死去。アブー・ターリブに養われる（イブン・カスィール 93:6）
子ども時代	羊の放牧（サヒーフ・ブハーリー 2262）

結び

乾いたマッカの谷で、一人の孤児が生まれ、アッラーの守りのもとで育ちました – 失ったときには守られ、心を清められ、働くことと忍耐によって育てられたのです。それは、「**あなたがたのため，とても心配している**」使徒のためにアッラーが用意された準備でした。イン・シャー・アッラー、『**預言者伝（スィーラ）**』シリーズは、かれの青年期と成人期へと続きます。シャームへの旅、ヒルフ・アル＝フドゥール（正義の盟約）、ハディージャ رضى الله عنها との結婚、そしてカアバの再建です。アッラーこそが最もよくご存じです。

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

参考文献

クルアーンとタフスィール

聖クルアーン、ウスマーン版のアラビア語本文と三田了一訳。https://quran.com/ms

イブン・カスィール『タフスィール・アル＝クルアーン・アル＝アズィーム』（2:129；9:128；14:37；93:6–8；94:1；106:1–4）。https://tafsir.app/ibn-katheer/93/6

ハディース

サヒーフ・ムスリム 2276、1162、162、976。https://sunnah.com/muslim

サヒーフ・ブハーリー 5101、2262；預言者 ﷺ の遣わしの章。https://sunnah.com/bukhari:3851

スィーラと歴史の書

イブン・ヒシャーム『預言者伝（アッ＝スィーラ・アン＝ナバウィーヤ）』（イブン・イスハークからの伝承）– アッラーの使徒 ﷺ の誕生、授乳、幼少期の章。

Wikipedia「Pre-Islamic Arabia」。https://en.wikipedia.org/wiki/Pre-Islamic_Arabia

Wikipedia「Mecca」。https://en.wikipedia.org/wiki/Mecca

Wikipedia「Quraysh」。https://en.wikipedia.org/wiki/Quraysh

Wikipedia「Hashim ibn Abd Manaf」。https://en.wikipedia.org/wiki/Hashim_ibn_Abd_Manaf

Wikipedia「Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Amina bint Wahb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Amina_bint_Wahb

Wikipedia「Halima bint Abi Dhu'ayb」。https://en.wikipedia.org/wiki/Halima_bint_Abi_Dhu%27ayb

Wikipedia「Umm Ayman」。https://en.wikipedia.org/wiki/Umm_Ayman

Wikipedia「Abu Talib ibn Abd al-Muttalib」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abu_Talib_ibn_Abd_al-Muttalib

Wikipedia「Souk Okaz」。https://en.wikipedia.org/wiki/Souk_Okaz

世界史と考古学

Wikipedia「Justinian I」。https://en.wikipedia.org/wiki/Justinian_I

Wikipedia「Khosrow I」。https://en.wikipedia.org/wiki/Khosrow_I

Wikipedia「Plague of Justinian」。https://en.wikipedia.org/wiki/Plague_of_Justinian

Wikipedia「Byzantine–Sasanian War of 572–591」。https://en.wikipedia.org/wiki/Byzantine%E2%80%93Sasanian_War_of_572%E2%80%93591

Wikipedia「Abraha」。https://en.wikipedia.org/wiki/Abraha

Wikipedia「CIH 541」。https://en.wikipedia.org/wiki/CIH_541

UNESCO「Landmarks of the Ancient Kingdom of Saba, Marib」。https://whc.unesco.org/en/list/1700

UNESCO「Al-Faw Archaeological Area」。https://whc.unesco.org/en/list/1712

Wikipedia「Bujang Valley」。https://en.wikipedia.org/wiki/Bujang_Valley

Wikipedia「Srivijaya」。https://en.wikipedia.org/wiki/Srivijaya

Wikipedia「Sui dynasty」。https://en.wikipedia.org/wiki/Sui_dynasty

© 2026 年 / 1448 AH 著作権所有 Hj Che Alim Hj Che Haron — ムスリムのための無料版 |

支援と寄付

この電子書籍はムスリムのために**完全に無料**で発行されており、**決して販売してはなりません**。研究費、ウェブサイト quranscience.my の運営費、そして次の電子書籍の発行のためのご寄付を心から歓迎します – ただし、**義務ではありません**。アッラーがすべてのご寄付を継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）としてお受け入れくださいますように。

雌牛章 2:261

مَّثَلُ ٱلَّذِينَ يُنفِقُونَ أَمۡوَٰلَهُمۡ فِي سَبِيلِ ٱللَّهِ كَمَثَلِ حَبَّةٍ أَنۢبَتَتۡ سَبۡعَ سَنَابِلَ فِي كُلِّ سُنۢبُلَةٖ مِّاْئَةُ حَبَّةٖۗ وَٱللَّهُ يُضَٰعِفُ لِمَن يَشَآءُۚ وَٱللَّهُ وَٰسِعٌ عَلِيمٌ ٢٦١

アッラーの道のために自分の所有するものを施す者を例えてみれば、ちょうど 1 粒が 7 穂を付け、1 穂に百粒を付けるのと同じである。アッラーは御心に適う者に、倍加してくださる。アッラーは厚施にして全知であられる。

訳：三田了一 — quran.com/2:261

サバア章 34:39

قُلۡ إِنَّ رَبِّي يَبۡسُطُ ٱلرِّزۡقَ لِمَن يَشَآءُ مِنۡ عِبَادِهِۦ وَيَقۡدِرُ لَهُۥۚ وَمَآ أَنفَقۡتُم مِّن شَيۡءٖ فَهُوَ يُخۡلِفُهُۥۖ وَهُوَ خَيۡرُ ٱلرَّٰزِقِينَ ٣٩

言ってやるがいい。『本当にわたしの主は、そのしもべの中から御心に適う者に、御恵みを豊かに与えまた或る者には乏しく授けられる。かれはあなたがたが（主の道のために）施すものはすべて返される。かれは最も優れた御恵を与える方であられる。』

訳：三田了一 — quran.com/34:39

ハディース — 『サヒーフ・ムスリム』第 2588 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، وَابْنُ، حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - وَهُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، عَنْ رَسُولِ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « مَا نَقَصَتْ صَدَقَةٌ مِنْ مَالٍ وَمَا زَادَ اللَّهُ عَبْدًا بِعَفْوٍ إِلاَّ عِزًّا وَمَا تَوَاضَعَ أَحَدٌ لِلَّهِ إِلاَّ رَفَعَهُ اللَّهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「施しは財産を減らさない。人を赦すしもべに、アッラーは尊厳しか増し加えない。アッラーのためにへりくだる者を、アッラーは必ず高められる。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← アル＝アラー・ブン・アブドゥッラフマーン ← 父 アブドゥッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضى الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』善行・親族の絆・作法の書、赦しと謙虚さを勧めることの章、ハディース第 2588 番。

等級： サヒーフ（真正）―『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:2588

ハディース ― 『サヒーフ・ムスリム』第 1631 番

حَدَّثَنَا يَحْيَى بْنُ أَيُّوبَ، وَقُتَيْبَةُ، - يَعْنِي ابْنَ سَعِيدٍ - وَابْنُ حُجْرٍ قَالُوا حَدَّثَنَا إِسْمَاعِيلُ، - هُوَ ابْنُ جَعْفَرٍ - عَنِ الْعَلاَءِ، عَنْ أَبِيهِ، عَنْ أَبِي هُرَيْرَةَ، أَنَّ رَسُولَ اللَّهِ صلى الله عليه وسلم قَالَ « إِذَا مَاتَ الإِنْسَانُ انْقَطَعَ عَنْهُ عَمَلُهُ إِلاَّ مِنْ ثَلاَثَةٍ إِلاَّ مِنْ صَدَقَةٍ جَارِيَةٍ أَوْ عِلْمٍ يُنْتَفَعُ بِهِ أَوْ وَلَدٍ صَالِحٍ يَدْعُو لَهُ ».

訳：

アブー・フライラ رضى الله عنه によれば、アッラーの使徒 ﷺ は言われた。「人が死ぬと、その行いは三つを除いて途絶える。継続する施し（サダカ・ジャーリヤ）、役に立つ知識、またはその人のために祈る正しい子どもである。」

伝承経路： イマーム・ムスリムの伝承：ヤフヤー・ブン・アイユーブ、クタイバ・ブン・サイードとアリー・ブン・フジュル ← イスマーイール・ブン・ジャアファル ← ア

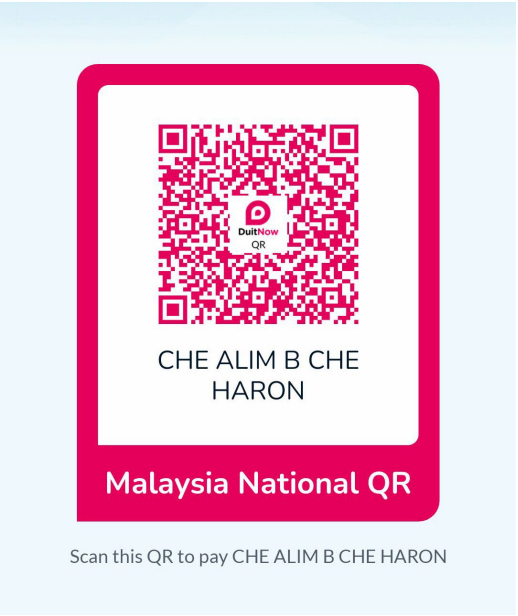
ル＝アラー・ブン・アブドッラフマーン ← 父 アブドッラフマーン・ブン・ヤアクーブ ← アブー・フライラ رضي الله عنه。

出典： イマーム・ムスリム『サヒーフ・ムスリム』遺言の書、死後に人に届く報奨の章、ハディース第 1631 番。

等級： サヒーフ（真正）— 『サヒーフ・ムスリム』に収録。

典拠：https://sunnah.com/muslim:1631

ジャザークムッラーフ・ハイラン・カスィーラ（多大なる善い報いがありますように）



上の QR コード（DuitNow）を読み取って寄付できます。



海外からのご寄付：寄付するボタンをクリックするか、こちらへ paypal.me/quranscience